

飼料用米の多収品種の取組(品種名:ふくひびき)

取組主体名:山辺町再生協飼料用米推進部会

基本情報

- 土質 グライ土、低地土
- 山辺町の水稲作付面積 403ha(H27)
- 飼料用米作付開始 H20年 4.7ha 8名
- 飼料用米生産者数 26名(H27)

取組の経緯等

- 既存の稲作機械を利用できる転作作物を町内の大規模稲作農家が検討
- 飼料用米利用について町内の養豚農家と合意
- 平成20年に飼料用米推進部会発足。農家、実需者、JA、飼料会社、食肉販売業者、行政の連携体制確立
- 栽培適性、収量性等の比較検討を数年間行い、「ふくひびき」を選定・採用
- 食肉は「舞米豚」として県内外で流通

取組のポイント

- 「飼料用米PJ」として畜産、稲作農家、関係機関が連携
- 町単独の数量払い助成(5~10円/kg)および団地化助成(5千~7千円/10a)
- 行政(役場)が「舞米豚」のPRに協力

データ

	栽培方法	作付面積		単収(/10a)	
		H26	H27	H26	H27
飼料用米 (品種: ふくひびき)	移植	19.2ha	28.6ha	726kg	696kg

生産コスト低減の取組

- 豚糞堆肥を活用した肥料費削減
- 団地化による栽培管理の効率化
- 直播栽培への試験的取組み
- 生育診断に基づく適期・適量の施肥
- 立毛乾燥による籾水分低下



課題・今後の目標

(要望)

- 直接支払交付金の継続
- 多収性専用品種に取組む際の加算措置の継続
- 飼料用米専用とするための乾燥調製施設改修に対する補助事業